

別記様式2

開発調査推進会議報告書

会議責任者 開発調査センター所長

- 1 開催日時及び場所 日時 平成30年3月13日(火) 13:30～17:30
場所 クイーンズフォーラム会議室E
- 2 出席者所属機関及び人数 14機関 35名
- 3 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	情報調査役が開会を宣言した。
2. 挨拶	理事長が主催者挨拶を行った。 水産庁漁場資源課長から挨拶を頂戴した。
3. 資料確認	情報調査役が資料の確認を行った。
4. 委員紹介	情報調査役から委員の紹介を行った。
5. 座長選出	規程により理事長が、座長として開発調査センター所長を指名した。
6. 議事	
(1) 開発調査推進会議の役割について	開発調査推進会議の役割と開催時期等について開発調査センター副所長より説明した。
(2) 開発調査等の29年度の実施状況と30年度計画について	各グループ毎に開発調査等の29年度の実施状況と30年度計画について報告し、それに基づいて協議した。
1) 底魚・頭足類開発調査グループの開発調査について	底魚・頭足類開発調査グループリーダーから、いか釣、沖合底びき網の各事業について報告すると共に、30年度計画について説明した。 出席委員等からの主な意見は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・サンマ船については LED の導入が進んでいるが、イカ船では導入がなかなか進まない。メタハラ灯の7-9割の漁獲では、まだまだな感がある、引き続き技術の向上に努めてもらいたい。 ・底びき網については、選別作業がどれくらい楽になるのか、コストや操業面への影響等の検討もしてもらいたい。 <p>以上の意見等を加味して次年度以降調査を実施することとした。</p>

議 題	結果の概要
2) 浮魚類開発調査グループの開発調査について	<p>浮魚類開発調査グループリーダーから、遠洋かつお釣、遠洋まぐろはえなわ、海外まき網、漁船ビッグデータの各事業について報告すると共に、30年度計画について説明した。出席委員等からの主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖循環については、各種ポンプの稼働方法など技術的な質問と合わせて、今後、省エネ効果を明確にするよう意見があった。 ・ドローンについては、近い将来、当業船で利用可能な段階に至るよう、調査を進めてもらいたい。 ・低未利用魚の利用について、日本ではアブラソコムツは取引できないが、付加価値の高い魚なので、海外市場を視野に入れてワックス除去の研究もやってもらいたい。 <p>以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。</p>
3) 資源管理開発調査グループの開発調査について	<p>資源管理開発調査グループリーダーから、近海かつお釣、沿岸課題の各事業について報告すると共に、30年度計画について説明した。出席委員等からの主な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カツオの漁期が早まっている。漁獲量自体が減っている。この事業の出口は何か。経営が厳しい中で、定置では高価な機器は導入しにくい。コストの面も考慮してもらいたい。養殖についてもコスト面を考慮してもらいたい。社会実装には、トータルコーディネートが必要である。 ・定置網は全国的なもの。高知で得られた知見をどう展開していくのか。広域的な視点で取り組んでももらいたい。 <p>以上の意見等を加味して次年度調査を実施することとした。</p>
4) スジアラ養殖の企業化に向けた技術開発について	<p>開発調査専門役から、西海区水産研究所亜熱帯研究センターと共同で実施しているスジアラ養殖の企業化に向けた技術開発について、全体の概要、年度計画、29年度の実施状況について説明した。</p>
5) 受託調査について	<p>事業推進役から、受託調査として開発調査センターが実施した、スケトウダラ音響トロール調査の概要について報告した。</p>
6) 研究会の活動について	<p>沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会の趣旨およびその活動状況について事業推進役から報告した。</p> <p>いか釣漁業漁灯技術研究会の活動について事業推進役から報告した。</p>
(3) その他	<p>特になし</p>
7. 閉会	<p>担当理事が閉会の挨拶を行った。</p>